

光市医師会報

昭和55年 2月発行

No. 90



長唄 浦島

河内山 清先生

光市医師会

医師会月間行事

◎定例理事会

2月12日(火) 午後7・30

光市医師会館

○報告事項

1. 総務担当理事協議会報告
 - (イ) 県医定款改正に伴う新会員区分への移行措置
 - (ロ) 昭和55年度郡市医師会補助金について
 - (ハ) 第1号会員所得割会費賦課特例について
 - (ニ) 郡市医師会運営状況調査について
 - (ホ) 医師連盟寄付金送付について
 - (ヘ) 積立ファミリー交通傷害保険について
 - (ト) 丸茂重貞氏後援会について
2. 徳山保健所より地域諸健診の依頼特に光市より子宮癌健診の日数延長について
3. 昭和54年度学校医研修助成金受領
4. 周南三市医師会役員会について報告
5. 徳山看護学院よりの依頼について

◎協議事項

1. 昭和55年度学校医及び諸出務手当について
2. 昭和55年度呼吸器疾患調査について
3. 丸茂重貞氏の後援会活動について
4. 諸規則(定款、施行規則、適配等)改訂についての検討

5. 休日当番医の年内予定について
6. 予防注射等出務の年内予定について
7. 税の自主申告について

◎定例月例会

2月26日(火) 午後7・30

光市医師会館

1. 医師国保組合会議(2月21日) 県医代議員会(2月24日)について 議事報告
2. 総務担当理事協議会の議事について
3. 周南三市医師会役員会議事及び光市の学校及び諸出務手当の回答について
4. 丸茂重貞氏後援会の現状について
5. 年内の当直医及び諸出務の日割計画について
6. 諸規則の改訂について
7. その他

会員異動

◎退会

- 杉田浩志先生 昭和55年1月20日付
光市立病院より山大付属病院
- 野並芳樹先生 昭和54年12月31日付
光市立病院より山大付属病院

◎入会

- 金 福柱先生 昭和55年1月1日付
倉敷中央病院より市立病院外科
- 桑田憲幸先生 昭和55年1月21日付
山大整形外科より市立病院整形外科
- 藤原邦彦先生 昭和55年2月12日付
下関厚生病院皮膚科より相生町にて開業

中島恕介先生逝去さる

2月19日午前5時30分島田市上町の自宅で亡くられました。数日前から風邪の為に床についておられましたが、急性肺炎を併発、鬼籍に入られました。享年80才。告別式は20日午後1時から島田市大雲寺で行なわれました。

先生は明治33年2月20日生れで、熊毛郡八代出身、大正14年東京医専卒、昭和3年6月当地で開業されました。戦時中は召集により満洲、中支、南支を転戦され、軍医大尉で終戦を迎えておられます。復員後は聖光高校と島田小学校校医や光市医師会理事等なさっておられました。

生前の御縁を感謝しつつ、御冥福をお祈り申し上げます。

My Hobby

河内山 清

龍宮城は飲んで食って眠って恋をして如意自在の極楽世界である。はじめの内は面白かったろうが、日が経つにつれて浦島君倦き倦きして来て大あくび。やはり苦しくとも娑婆世界の方がよいと云うので勿体ないのに龍宮をとび出して、おまけに好奇心やみ難く禁断の玉手箱をあけてびっくり勿ち時間空間の世界へ逆もどり、家で寝こんで居ればよいものを苦しい目をして山登り等する物好きの人が多いのと一緒に。何でも思いのままになる世界なんて退屈で面白くも何ともないらしい。やはり憂き世でガツガツやっているのが一番楽しいのか

も知れない。アダムは楽園を追放されたままであるが、浦島には楽園へ舞いもどる方法がちゃんと初めに書いてある。もっとも二度目三度目となると入場料もはね上って居るだろうから、亀を助ける位の愛行ではすまないのではないかと思うが、舞の方は青年浦島が乙姫様との恋を回想する美しい文句と場面とが大半であるが、最後のあたりに腰の曲ったおじいさんが登場する。この方はどうも年齢差があり過ぎてやりにくいと負け惜しみを云はねばならなくなった年頃になったと云うことが何よりも残念なことであるのである。

表1

年次	年間医療費総	対増前年率	国一医 民人 年当 間り 費
	億円		円
昭和30 (1955年)	2,388	1.11	2,675
31 (1956)	2,583	1.08	2,862
32 (1957)	2,897	1.12	3,180
33 (1958)	3,230	1.12	3,511
34 (1959)	3,625	1.12	3,899
35 (1960)	4,095	1.13	4,384
36 (1961)	5,130	1.25	5,441
37 (1962)	6,132	1.20	6,443
38 (1963)	7,541	1.23	7,843
39 (1964)	9,389	1.25	9,661
40 (1965)	11,224	1.20	11,421
41 (1966)	13,002	1.16	13,126
42 (1967)	15,116	1.16	15,080
43 (1968)	18,016	1.19	17,766
44 (1969)	20,780	1.15	20,244
45 (1970)	24,962	1.20	24,032
46 (1971)	27,250	1.09	25,949
47 (1972)	33,994	1.25	31,672
48 (1973)	39,496	1.16	36,332
49 (1974)	53,786	1.36	48,875
50 (1975)	(64,779)	1.20	57,871
51 (1976)	(76,684)	1.18	67,810
52 (1977)	(85,686)	1.17	75,010
53 (1978)	(104,000)	1.	
54 (1979)			
∴ ()			
58 (1983)	(203,000)		
	(予想)		

表 2

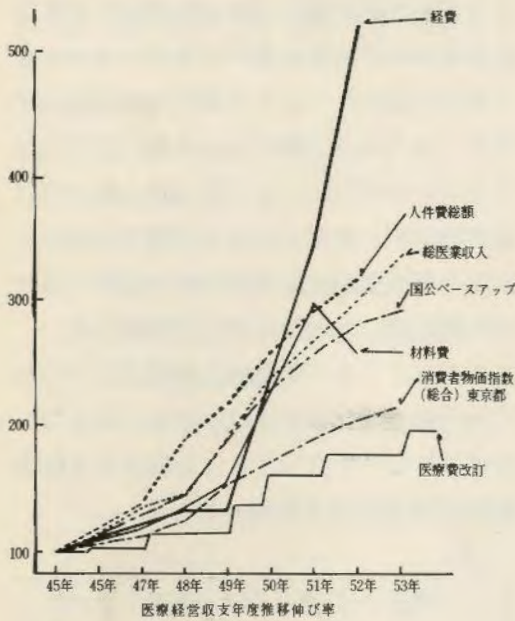
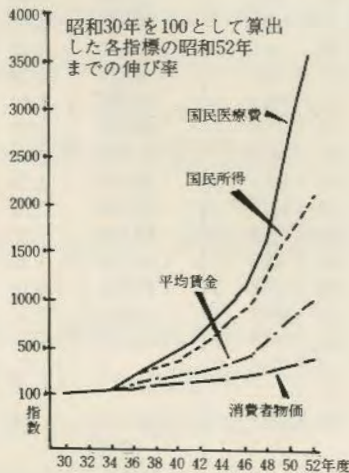


表 3 アメリカにおける医療費の伸び

年次(5年毎)	年間国民総医療費	国民年間1人当り医療費
1955 (昭和30)	179億ドル	107ドル
1960 (35)	264億ドル	145ドル
1965 (40)	389億ドル	197ドル
1970 (45)	692億ドル	324ドル
1975 (50)	1,185億ドル	
1978 (53)	1,620億ドル	対GNP 8.8%
1979	2,006	対GNP 9%

表 4



あとがき

今月は光市医師会で最も趣味の豊かな優雅な文人と申しますか、教養が高く、多才の持主である河内山清先生に御登場願いました。長唄はそのうちの一つです。

近年武見会長の講演やいろんな論説等を読んでおられますと、以前の内容とは大きく変わって参っておりますことをお気づきと思います。

特に昨年から今年頭の挨拶等に到りますと如何にきびしい条件が私等の前に展開されるか、次第にその語調の厳しさの中で、予見の確かさに頭が下る思いがします。掲載いたしました表はいずれも過去の幾何級数的な医療費の増加を示していますが、医療費の改訂、景気や賃金の上昇等の期待を望むことが出来ないとすれば、今後の推移は如何でしょうか。私共医師はどのようにして生きていったらいいのでしょうか。従来云われておりましたような危機感とは違ったものだと思うのですが。

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	大野宗二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社